



南中学校についてのアンケート 結果及び考察

本校では、生徒の皆さんや保護者の方々からアンケートにお答えいただき、教師自身が自己を振り返るとともに、学校教育の一年間の反省や次年度への方向性を考えさせていただいております。本年度も、「学校づくりビジョン」で学校教育目標や具体的な重点目標をお知らせし、教育活動に取り組んで参りました。それぞれの結果を踏まえて改善すべき点をはっきりさせ、次年度への教育活動に生かしていこうと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

I 学力の定着と充実

授業に対して生徒からは87%、保護者からは92%の方から肯定的な評価をいただきました。本校では「わかる授業、楽しい授業づくり」を研修テーマに、小集団活動を利用した指導の充実や基礎学力の育成をめざして取り組んでいます。

基礎学力の育成では、帰りの学活前に10分間「南トレ」学習を行っています。1、2年生は漢字・計算練習・英単語、3年生は5教科の補充学習（復習プリント）をしています。各教科においては授業開始時に復習をしたり、小テストによる確認や重要語句などをプリントで繰り返し学習を行ったりしています。ICT（情報通信技術）の活用やティームティーチング（TT）などにより、生徒からは「質問しやすい」「授業が効率よく進む」という意見が多くあり、学習理解・定着についてよい方向に向かっています。

また、生徒同士が学びあい、コミュニケーション能力を養うために、各授業において小集団（班・グループ）活動を取り入れ、生徒同士の結びつきを強くするとともに、学習の確認や定着、話し合い活動が様々な場で効果的にできるようになってきました。授業の目標に対して活発に教え合ったり、意見を交換したりする様子が見られ、各授業で定着してきたと感じられます。

適切な評価に関しては、生徒87%、保護者91%から肯定的な評価をいただいています。本校は、年度当初に各教科の授業計画や内容の概略・評価の観点、および評価の方法をシラバスで生徒や保護者に明確にしています。また、三者懇談で、それぞれの教科担任から学級担任がコメントをもらい、生徒・保護者に伝えるようにしています。今後、全ての教科から、より詳細なコメントや評価基準を提供し、今まで以上に説明責任が果たせるようにしていきたいと思っております。

進路指導における肯定的な評価が、生徒73%、保護者87%と比較的高いものの、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒が27%もあり、それだけ進路指導に関して不安を抱いている生徒が多いことが分かります。1年では高校調べや職業調べ、2年では働く人の講演や職業体験学習、3年では将来の進路選択を見据えた指導を行っています。今後、生徒へのより具体的な指導の場を増やし、「進路」＝「進学」という誤解を払拭していきます。さらにキャリア教育の視点を大切に3年間の計画的な進路指導を充実させて、生徒自らが将来を見据えた進路選択ができるようにしたいと考えています。

不登校の生徒については、その要因も状況も一人ひとり違うことから、家庭訪問等により保護者とともに生徒に応じた対応を心がけ、「ふれあい教室」や北勢児童相談所などの外部機関との連携により、一人ひとりの生活習慣の確立および進路を保障したいと考えています。

学力の定着と充実については生徒・保護者から高い評価をいただいておりますが、授業がわからなくなっている生徒や提出物が出せない生徒がいるのも事実です。生徒一人ひとりが分かる授業を展開できるよう授業改善に取り組むとともに、授業等について他の教員と情報交換したり、ICTをより効果的に活用し授業実践や教材を共有したりするよう努めたいと思っております。テスト（定期テスト・CRT・学力状況調査・その他のテスト）の分析から課題を見つけ、毎時間の学習活動の実践につなげていきたいと思っております。

学力状況調査の結果から家庭学習の定着が毎回課題となっています。学力の定着を図るために、宿題の出し方等の工夫を行い、家庭と協力をしながら、家庭学習を充実させるようにしていきたいと思っております。

Ⅱ 心の教育の推進

本校では休憩時間に教師は教室や廊下などにいるようにして、生徒との対話を心がけています。また、担任は学期ごとに生徒一人ひとりと教育相談を行い、生徒の悩みや考え、思いを知る機会としたり、友人関係などを知ることによりいじめやトラブルの防止につなげたりしています。

また、1年生は外国人・障がい者の人権、2年生は部落問題、3年生は子ども・女性の人権などに重点をおいて3年間を見通した人権学習を行っています。また、それぞれの行事や学習の中で道徳的価値を明らかにして、学校教育活動のあらゆる場面で心を育てる意識を持てるようにしています。

何気ないしぐさや言葉づかい、からかいなどで嫌な思いをさせたり傷つけたり、携帯電話で相手を傷つける言葉や画像を書き込んだりして、いじめに発展していきことがあります。教育相談や生活ノートなどを通していじめが分かってきますが、該当生徒や周りの生徒の聞き取りなどを素早く行い、学級や学年集会で全体の問題として考え対応しています。しかし、「いじめ・差別を許さない仲間づくり」については、教師100%に対して生徒81%、保護者87%とずれがあり、子どもたちの不安をくみ取り切れていない事実があります。我々、大人のアンテナをさらに高く、20%近い子どもの心の声に耳を傾ける姿勢を忘れてはいけないことを痛感しました。

心を育む教育の充実については、生徒・保護者・教師とともに90%近くの高い評価をいただいています。教師は道徳教育、人権教育の意義を再認識し、自らに目を向け、自らを振り返り、自らの意識を高め、他者の思いに共感できる豊かな感性を育んでいきたいと思えます。

Ⅲ 健康・安全教育の徹底

生徒が安心して学習できる環境をつくるのが、学校においては重要なことです。そのことから見れば、毎日楽しく学校へ来ている生徒が82%いるという結果はうれしいことです。しかし、逆に18%の生徒は何らかの不安を感じているということです。生徒一人ひとりの要因や状況をつかむため、家庭訪問等により保護者とともに生徒に寄り添った対応を心がけ、場合によっては「ふれあい教室」「北勢児童相談所」などの外部機関とも連携を図り、一人ひとりの生活習慣の確立および進路を保障したいと考えています。

人間関係をつくっていくには、まず挨拶ができる環境をつくっていかねばなりません。PTAでの挨拶運動をはじめ、生徒会でも挨拶運動をおこなっており、その評価は生徒81%、保護者93%とたいへん高くなっています。しかし、生徒と保護者の差が12%あることから、挨拶が受け身的なものや知っている人にだけ挨拶をするという固定した集団の中だけのものとなっていると思われる。生徒一人ひとりが自主的に挨拶できるようになっていくと、地域とのつながりも深まり、より理想的な教育活動が行われると考えます。

部活動においては、生徒85%、保護者88%から高い評価をいただいています。しかし、2学期以降になると転部を希望する生徒もいる現状から、残り15%の生徒の意欲の向上と意識改革を目指し、取り組むことが必要と思われる。世間で騒がれている体罰の問題や、部活動内での人間関係づくりなど、さらなる指導力向上に努めていきたいと思えます。そのためには部活動を一層活発にするとともに3年間継続して活動できる環境づくりを工夫する必要があると考えています。

Ⅳ 地域・家庭・保護者との信頼関係の確立

教師の7%が連絡を行えていないという結果が出ました。これは配信している情報が生徒を通じて保護者に確実に伝わっていないと考えていることを表していると思われる。一方、生徒の結果を見ると18%が教師からの配信を保護者に伝えていないと答えており、教師の予想の倍以上あることは今後の大きな課題です。保護者の数値をみると、9%の保護者が教師からの情報が生徒を通じて伝わっていない、あるいは学校が情報を発信していないと考えています。このことは、今後の課題として改善していきます。

開かれた学校づくりの推進では、保護者の95%が肯定的な回答となっています。本年度は平日だけでなく、土曜授業のときにもフリー参観を実施しました。また、土曜授業では合唱コンクールリハーサルも行い、多くの保護者に来ていただきました。体育祭、文化祭にもたくさんの保護者や地域の方々、地域の幼稚園児などに来ていただく事ができました。今後も、フリー参観や行事等を通して、地域に学校を開きたくさんの方からご意見をいただき、地域に根差した学校づくりへとつなげていきたいと考えています。